

# 市民のページ

## 文芸たかはし

(敬称略)

### 短歌

吹く風にもみ合いながら争はぬ竹の操かもとの姿に

梅野 八郎(松山)

色褪せし古きアルバム繰り返す若かりし日のありてなつかし

小野はる恵(原田南町)

北風のすきまに一輪山茶花の紅を見つける師走の朝に

亀石恵美子(川上町仁賀)

師走月強寒ばよくぞ咲いたサザンカ二輪元氣貫つた

下向 近雄(備中町平川)

大吉に余生の夢を抱きつつおみくじ確と神樹に結ぶ

平 初音(高倉町田井)

吹きすさぶ木枯らしの音枕辺に聴きつつ寝る隙もあらじな

樹上 秀雄(備中町西山)

このお宅昔し乍らの餅つくか杵ときなどり用意してあり

宮本 宮吉(川上町七地)

来る年が平和な年であるように星にねがいをつたえて祈る

森崎 道子(宇治町宇治)

### 俳句

古き家の軒ゆるがせて雪しずる

長原 茂子(備中町西油野)

風にのり 川越ゆ丹頂 暖かし

平松 幾代(長寿園内)

山茶花は風雪にたえ化粧をする

結城 成子(宇治町宇治)

### 川柳

夫ねてすまぬ言葉目になみだ

赤木 文子(備中町西山)

まめやかに一つ取り得の人生路

藤井タツ子(備中町西山)

## 地名をよるし

### 十五 畦地



有漢町に「畦地」という字地名(行政区の名称)があります。県道高梁旭線を有漢川に沿って北東に上り、市場の集落を過ぎ、有漢中学校を右に見て過ぎると八幡の集落に差し掛かるこの付近は、対岸に小丘陵が迫り、東の奥の吉備中央町と境を接する大平山(六九七m)や権現山(有漢富士)(五九九m)から流れる横見川が有漢川に合流する場所、横見川に沿った低地には水田が分布し、北側には、吉備高原を侵食した老年期の丘陵面が波浪状に有漢川に向って突き出していて小さな丘の地形を呈しています。この小丘陵地を中心にした場所が「畦地」なのです。

丘のふもとの斜面に沿って民家が点在し海拔二〇〇m〜三〇〇mの小丘陵地で、地質は「新生代新第三紀層の泥岩、砂岩、礫岩」(有漢町史)の地層で小丘陵地の特色になっています。

「畦地」は江戸初期の寛永備中国絵図(寛永十五年(一六三八)や、正保二・三年(一六四五〜一六四六)頃の正保郷帳によると、上房郡下有漢村に含まれていましたが、江戸後期には天保郷帳(天保五年(一八三四)に下有漢村の肩書付で上村と書かれ、村名が変わっています。江戸初期の下有漢の石高は一〇八〇石余り(正保郷帳)、江戸後期には、「上村の石高一二〇一石余、庄屋、与惣右衛門」(有漢町史)と記録されています。

下有漢村(のちに上村)は、延享元年(一七四四)まで松山藩領となっていました。この年石川氏が伊勢亀山へ転封となったため、石川氏が設置した中津井陣屋(真庭市中津井)の支配を受け幕末を迎えています。延享元年には上村の内一九〇石余は亀山藩領、残りの一〇一〇石余りは、有漢上村となり、松山藩板倉氏領として残され、二つの藩から支配されて

いました。

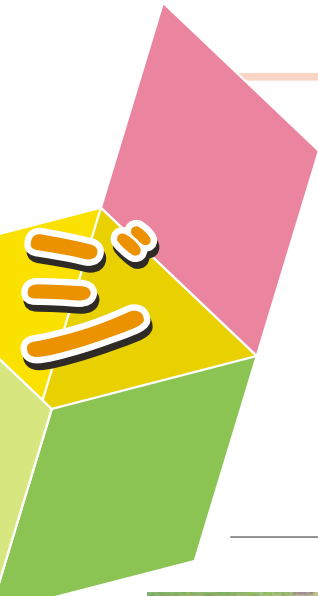
「畦地」には、「秋庭一族家臣の供養墓地ではないか」(有漢町史)といわれ、多くの五輪塔や宝篋印塔などの石塔が残り「十五・六世紀・室町時代ごろのもの」(「前掲書」)と推測されている清浄寺跡が丘の上に残っています。また「畦地」と横見の境付近には明応四年(一四九五)に秋庭大蔵大夫真光によつて再興され、永保年間(一〇八一〜一〇八四)の創建といわれる山門に花頭窓を施した臨済宗真光寺があります。江戸末期には寺小屋があったといわれる寺で、付近は教育の地だつたらしく明治時代の精華小学校の跡地も残っています。今では「畦地」の付近はバイパスが通り道路が拡張され、コミュニティハウスやライズセンター、常山公園など多くの施設が出来て「畦地」の地形や風景が変わつてきて歴史の面影が薄くなりつつあります。

「畦地」という地名は「畦」「畔」などの文字で表現されることが多く、全国に分布しています。地名の由来については、①曲がつた川岸とか、②田畑の畦、③自然堤防のような微高地・丘、④校倉造りのように高く積み上げたような意、⑤アゼはアズと同じく崩崖(崩壊地形)を意味するなどの諸説があります。

しかし有漢の「畦地」は小さな丘とか微高地を意味する自然地名の一つだと思われのです。(文・松前俊洋さん)



県道から見た「畦地」地区



「今年の干支」押絵  
氏弘 澄恵さん(有漢町有漢)



「戌」押絵  
原田テル子さん(成羽町下日名)

今年  
は  
「戌年」



「がんばれ、うでずもう」具原美南(成羽小3年)



「大きなおもがとれたよ」平松希美(成羽小2年)



「ザリガニ」土田 輝(成羽小1年)



「秋の時のニワウルシ」井上定三(成羽小6年)



「成羽小学校校舎」間之川由依(成羽小5年)



「速い、ボールの速度」森下凌之介(成羽小4年)



「校門からの風景」高下 範子(成羽中3年)



「学校の玄関」埜友里江(成羽中2年)



「紅葉した木」西田光輝(成羽中1年)

## 児島賞決まる!!

「平成17年度児島虎次郎を偲ぶ写生大会作品展」(敬称略)

### 児島賞と渡辺賞とは

「児島賞」は、郷土が生んだ偉大な画家である児島虎次郎(1881~1929)の業績の顕彰と後進育成のため、ご遺族の寄付により、昭和5年度より成羽尋常高等小学校の学業優秀な卒業生に授与されてきました。その後、成羽町合併時に中学校卒業生、昭和45年には美術に優れた児童生徒も受賞対象となりました。

平成6年からは新成羽町美術館開館を機に、学校行事として実施されている「児島虎次郎を偲ぶ写生大会」で描かれた作品の中から、各学年で最も優秀な作品一点に「児島賞」を授与することになり、現在に至っています。「渡辺賞」は、渡辺醇造氏(成羽町美術振興財団理事長)より、美術館の美術振興のためにと贈られた基金によって設けられた賞で、各学年で二番目に優秀な作品一点に贈られています。

今後は、市内の多くの小中学校に参加していただき、児島虎次郎についての理解や児童生徒の美術教育の向上に役立つように、内容の検討を進めていくところです。